

1 2023 年度 実施事業のまとめ

従来からの社会的養護アフターケアに加え、自立援助ホーム運営の経験を活かし、ピッケノハコ（居場所提供事業等）運営を継続するとともに札幌市の困難を抱える若年女性支援事業（通称 LiNK）にも引き続き取り組んだ。さらに、社会的養護には至らなかったものの、生きづらさを感じている若い方々への総合的な支援に取り組むと同時に、ケアリーバーやその周辺の方々と関わる関係団体との連携を深め、札幌市に社会的養護アフターケアの制度化を働きかけた。利用者の方に寄り添い支えることが、人それぞれの多様なあり方として想定される「自立」につながるとの理念を持ち、具体的には以下の5つの柱で事業を行った。

(1) 10代から20代の子どもや若者に対する自立支援事業

ピッケノハコを拠点とし、気軽に立ち寄り自由に過ごせる居場所の提供、緊急的な一時避難所（シェルター）の提供、個別の相談への対応、個人を支える伴走型支援の実施、交流活動を行った。

ピッケノハコは、正月三が日を除き毎日開室した（スタッフの研修のための臨時閉室が1日あった）。この事業を通じて、年齢、性別ともに利用者の幅が広がった。安定的な居場所運営によって、医療や障害福祉サービス等、専門分野を超えた支援への橋渡しができた。なお、複数スタッフによる居場所運営の維持が可能となったのは「休眠預金活用新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の受託による。

(2) 啓発事業・アウトリーチ活動

上記事業を広く周知するため、HP、Instagram、X等、インターネット・メディアを活用するとともに、従来通り、7月と12月にニューズレターを発行した。ピッケノハコ以外の場所での相談活動や同行支援を行った。LINE登録者は、前年度末の87名から108名に増加した。また、ホームページは、相談先を探す方にも活用されていることが確認できた。他団体等の依頼を受け、講師を派遣した。メディアの取材を受けた。支援機関、研究者等の見学を受けた。

(3) ネットワーク強化

関連する活動を行う他の民間団体や行政機関と情報交換や連絡を密にして連携を強化した。さっぽろ若年女性支援ネットワーク「Cloudy」とともに食料品・日用品配布事業や共同研修を行った。

WAM（独立行政法人 福祉医療機構）の助成金を活用し、他地域のケアリーバー支援の実情を視察し、支援団体との連携を深めた。WAMの助成金事業で得られた各地の情報等を、報告会で発信した。その事業を通じて得られた知見をもとに、市内の支援団体とともに、ケアリーバー拠点について、札幌市に提言した。

(4) スタッフ養成事業・組織的財政的基盤強化

安定的な事業実施に向けて、スタッフ研修、・組織的・財政的基盤の強化に取り組んだ。

定期的にスーパーバイズを受けるとともに、支援の向上、NPO運営にかかわる外部研修に積極的に参加した。

(5) 札幌市「困難を抱える若年女性支援事業」（以下 LiNK 事業）

札幌市からさっぽろ青少年女性活動協会に委託された「困難を抱える若年女性支援事業」のうち居場所提供と自立支援の一部の事業を担った。

2 各事業の実施報告

(1) 10代から20代の子どもや若者に対する自立支援事業

内容

| | 電話 | メール | LINE | 来訪 | 訪問 | 同行 | 出張相談 | イベント | フードバンク | 年賀状送付 | 関係機関調整 |
|--------|--------------|-------------|--------------|---------------|------------|------------|------------|------|--------|-------|--------|
| 2023年度 | 322 (34) | 118 (11) | 1981 (86) | 1377 (73) | 42 (13) | 36 (21) | 36 (18) | 16 | — | 15 | 503 |
| 2022年度 | 483 (149) | 172 (66) | 1643 (98) | 1026 (135) | 37 (10) | 91 (19) | 25 (18) | 12 | 27 | 18 | 154 |
| 2021年度 | 556 (149) | 307 (80) | 1054 (57) | 687 (67) | 33 (9) | 92 (13) | | 11 | 18 | 17 | 114 |
| 2020年度 | 121 (14) | 216 (14) | 244 (13) | 150 (17) | 7 (2) | 21 (7) | | 14 | — | 17 | 42 |

* () 内は実人数

利用者（以下ハコメン）の方々がピッケノハコを知ったきっかけ（2023年度新規分）

| 利用者 | 関係機関 | LiNK | SNS | HP | リーフレット | メディア | イベント | 不明 | その他 |
|-----|------|------|-----|----|--------|------|------|----|-----|
| 7 | 12 | 6 | 2 | 4 | 1 | 0 | 0 | 18 | 4 |

① 居場所提供事業（居場所・相談・交流）

ピッケノハコ（以下、ハコ）では、多くの方が構えずに利用に踏みきれるよう、特に厳密な利用要件を設けていない。また、相談の「窓口」という形もとっていないが、日常的な利用を通じて少しずつ関係性を構築し、必要が生じた時に他の支援機関や行政機関への橋渡しを行ってきた。そのため、必要な時に速やかに繋がれるよう、関係諸機関とも緩やかな連携関係を維持した。支援機関への相談にはハードルの高さを感じている人が支援機関に繋がるためのスプリングボードとして、またすでに医療など支援機関につながっている方が、継続して支援を受けるための支えとしての役目も果たすことができた。

- 無料で利用できる通所の居場所として一年を通じてハコを開室し運営した。
- 開室時間帯は、前年度同様、平日は11時～17時、土日・祝日は14時～20時までと、平日の夜間利用の希望に応じて、月に一度通常より開室、閉室時間ともに遅くした「ヨルノハコ」を行った。
- 2023年度開始時の職員体制は、常勤スタッフ2名、非常勤スタッフ3名であった（内1名育児休業）。育児休業を取っていたスタッフも、5月からはオンラインでスタッフミーティングに参加、6月から週1日ハコに出勤するようになった。ハコ開室時間帯には、原則として、スタッフ（常勤・非常勤）2名が常駐する状態を維持した。
- ハコの利用対象は、社会的養護出身者、社会生活に困難があり各々の事情で家族からの支援を受けられない方、居場所を必要としている方などとし、実際には、おおむね、10代から30代の方々の利用があった。利用者の居住エリアは、札幌市内が中心だが、近郊自治体からの利用もある。また、他県・他市の児童養護施設等からの問い合わせ、見学もあった。
- 初めてハコを利用するには、緊急連絡先等を登録してもらい『ピッケノハコによるこそ』に記入してもら

2024 年度総会資料

い、併せて個人情報の保護についての説明を行い、同意を得ている。

- ハコの利用について予約制はとっていない。「一人で利用したい」「スタッフのみと話したい」といった希望については、原則前日までに連絡を受けて対応した。
- ハコに備品としてテレビ、タブレット、書籍、ボードゲーム、カードゲームなどを用意し、自由に閲覧・利用してもらった。
- ハコでは、飲み物、お菓子などを常備するほか、要望に応じて軽食を提供した。また、支援者から提供された食料品、衛生用品、日用品を配布したほか、経済的に来所が難しい方には、都合のいい場所までお届けした。おてらおやつクラブに加入し、お菓子や飲料の提供を受けた。昨年度まで食料品を提供して下さっていたNPO法人ハンズハーベストさんが法人を解散されたため、フードバンクからの食料提供は受けなかった。
- ゆる山ホール（澤田邸）を使用させていただき、お月見やハロウィーンなどのイベントを実施した。
- 夏には、円山登山、よさこい見物、花火大会、秋にはお月見、ハロウィーン、焼き芋イベントへのお出かけ、冬にはホワイトイルミネーションなど、季節に応じた催しに出かけた。
- 自立援助ホームの全国大会に際し、遠隔地のホームの方がハコを見学された。

②シェルター事業

シェルター利用実績

| | Link 事業 | ハコメン・OG |
|---------|---------|---------|
| 2023 年度 | 6 | 0 |
| 2022 年度 | 4 | 2 |

- CAN のシェルター「ヒミツノハコ」を、「困難を抱える若年女性」及び、家庭での居場所を一時的に失っている方の緊急的な一時避難場所として提供した。
- 未成年者の利用はなかった。また LiNK 事業以外での利用はなかった。
- LiNK 事業での利用が 6 件あった。うち 1 件は、前年度にシェルターを利用された方が、レスパイトとして、別々の日程で計 3 泊された。その後ピッケノハコ利用につながったケースはなかった。

③相談事業

相談は、ハコ来訪時の対面相談、電話や SNS 等による相談を主として行い、体調・経済的な事情でハコ来訪が難しいが対面での相談を希望される方には、こちらから出向いて相談を受けた。また、自宅へ伺って、家事のお手伝いをしながら、お話しを伺うこともあった。

病院・行政機関同行時、食料配布時に話すなかで、相談に移行する場合もあった。

専門的な支援を要すると考えられる場合には、インターネットなどで一緒に相談先を検索したり、以前からの連携団体の情報を提供したりするなど、橋渡しを行った。

なお、実際には、すでにそうした相談先を知っていても、足を運ぶに至っていなかった方、行ってみたらうまく相談できなかったという場合もある。ハコを利用することで、そうした相談先について一緒に考える過程を経て、相談に向けてのきっかけづくりを支援することも相談事業の一環ととらえ支援を行った。

④同行支援事業

定期的な通院の同行のほか、ハコメンが専門的な支援への橋渡しを希望される場合には、本人の要望があれば、支援先への連絡や同行を行った。支援機関と本人の面談にハコを使用することもあった。

2024 年度総会資料

⑤自立生活支援事業（学習支援、医療機関受診支援、就労支援）

不動産業者の紹介、内覧、契約等の同行、ハローワークやサポステへの同行、福祉施策の紹介や同行を行った。

(2) 啓発事業・アウトリーチ活動

- Twitter、Instagram、ホームページを通じてハコの存在を周知した。
- すでにつながっている方々とのやり取り、相談のツールとしてLINEを活用した。
- シーズ南平岸のOGには、誕生日カードと年賀状を送って、関係継続に努めた。

【広報】

- 7月と12月にニューズレターを発行し、会員・寄付を下された方々・各関係機関その他支援者に配布した（約300部）。
- CANの支援活動についての言語化と発信を目的とするブックレット作成に向け、今年度も協議を重ねた。
- HP、Instagram、Twitterでピッケノハコの活動の様子や寄贈していただいたことを逐次発信した。

【アドヴォカシー】

- 招きに応じ、講座、シンポジウムに積極的に登壇し、若者支援、若年女性支援の現状を伝えた。（報告等を行った主な講座、シンポジウムは以下の通り）

| | | | |
|--------|---|-----------|----|
| 10月19日 | 全国自立援助ホーム協議会札幌大会 | 分科会話題提供 | 札幌 |
| 10月20日 | 全国自立援助ホーム協議会札幌大会 | 全体会シンポジスト | 札幌 |
| 11月17日 | 札幌市社会福祉協議会ボランティア研修 「地域の高齢者、障がい者、子ども・若者について学ぶ講座」 「子ども・若者の現状と課題」編 | 講師 | 札幌 |
| 12月2日 | DV・性暴力被害者支援 スキルアップ講座 | 講師 | 函館 |
| 1月8日 | 巢立ちプロジェクト | 紹介 | 札幌 |
| 3月11日 | WAM 報告会 「北海道における社会的養護アフターケアのネットワーク強化 と伴走支援」 | 報告 | 札幌 |

- 法人理事の学会賞受賞を記念して、子どもの権利についての講演会を主催した。「コルチャックの教育実践から“権利の主体”について考える」（10月）
- 毎日新聞、北海道新聞、札幌少年友の会、NHKで活動が紹介された。
- 「若者の難しさを言語化する検証会議」に委員として参加した。
- 若年女性支援について、札幌市のインタビュー調査に協力した。

【若年女性支援のスキルの言語化・可視化】

- 2022年7月に行ったLiNK事業振り返りシンポの内容を踏まえて3年間の本事業の歩みをまとめたものをブックレット等に作成する計画であったが、具体的な取り組みには至らなかった。

【その他】

毎日新聞、北海道新聞、NHK、生活と自治（生活クラブ生協機関誌）、少年友の会の取材を受けた。

| | クラウドィ・キッチン | クラウドィ・キャンパス | 関係者会議 | 関係機関によるハコ見学 | 関係機関見学 |
|--------|------------|-------------|-------|-------------|--------|
| 2023年度 | 12 | 2 | 10 | 15 | 4 |
| 2022年度 | 10 | 2 | 4 | 15 | 3 |

2024 年度総会資料

- *関係者会議は、札幌市子ども・若者支援地域協議会、クラウド・キッチン、若者支援検証会議など
- *見学にいらした関係機関は、自立援助ホーム、子どもシェルター、児童養護施設、男女共同参画室、若者支援団体、大学の学生支援室、研究者など
- *関係機関見学は、乳児院、自立援助ホーム、児童養護施設など

(3) ネットワーク強化

- 若年女性支援や社会的養護自立支援に必要な関係者会議、研修に積極的に参画した。
- 札幌若年女性支援ネットワーク「Cloudy」の活動として、月に一度の食料品・日用品配布に参加し、共同で研修を行った。
- 保健センター、高校、病院、家庭児童相談室、社会的養護自立支援コーディネーターや地域の相談先等からケースの照会や相談を受けた。
- 若者（支援）の難しさを言語化する検証委員会委員の委嘱を受け（2年目）、会議・中間報告会に参加した。
- 社会的養護自立支援コーディネーターの要請を受け、NPO法人ブリッジフォースマイルがケアリーバー向けに行う研修会「巣立ちプロジェクト」で、社会に出たあとの支援先のひとつとして活動報告をした。
- 札幌レインボープライドに際し、クラウドとしてブース出店した。

(4) スタッフ養成事業・組織的財政的基盤強化

①スタッフ養成事業

- 支援やアフターケアに必要な社会的・専門的知識を獲得する機会を設けるため、月に一度、スタッフミーティングにスーパーバイザーを招き、事例対応について助言を受けた。
- WAMの報告会を兼ね、高校養護教諭の先生方をお招きし、普通教育修了後の年齢の若者を、地域で支える仕組みについて考える勉強会を行った。また、外部団体による研修に積極的に参加した。

スタッフが受講した主な研修

| 日程 | 内容(CANからの参加人数) |
|-----------|--------------------------------|
| 5月27日 | 社会的養護経験者のアフターケアの在り方を考える@札幌(2名) |
| 10月19、20日 | 全国自立援助ホーム協議会全国大会(5名) |
| 11月4、5日 | 貧困研究会(2名) |
| 11月11、12日 | 生活困窮者支援全国交流会(2名) |
| 11月10日 | リプロダクティブヘルスライツ(1名) |
| 11月18日 | 女性依存症者支援者研修(4名) |
| 12月12日 | 性的虐待等相談支援事業専門研修(3名) |
| 12月15日 | 札幌乳児院見学(4名) |
| 1月29日 | 引きこもり支援セミナー(2名) |
| 2月8日 | 若者支援事例共有勉強会(1名) |
| 2月9日 | 改正児童福祉法勉強会(1名) |
| 2月9日 | 困難女性支援法勉強会(1名) |
| 2月27日 | 若者支援の難しさと必要な支援(1名) |
| 3月22日 | 若年女性へのアウトリーチ(1名) |

2024 年度総会資料

②事務局体制

事務局長のほか、常勤、非常勤スタッフ各1名が事務局業務を兼任した。必要に応じ、他のスタッフ・理事が補佐をした。事務局はニューズレターの印刷・発行、スタッフの労務管理、スケジュール管理、会計業務、助成金管理、会員管理、取材対応などを行い、事業運営の円滑化に努めた。

③コンプライアンス体制

理事会は、コンプライアンス委員を委嘱し、内部通報体制を整えた。

(5) LiNK 事業

年末年始と毎週木曜日を除く毎日、16:00～18:00 ホットラインの対応をしたほか、LiNK 事業の利用希望者との面談、関係機関への同行、シェルター提供、協力団体のシェルター紹介、CAN シェルター（ヒミツノハコ）および協力団体のシェルター利用中の面談、シェルター利用後の自立支援として関係機関同行や住居確保の支援を行った。今年度は、合わせて12名の方に上記支援を行った。

また、困難を抱えている若年女性支援事業（LiNK）のアウトリーチ活動としての、すすきの周辺の夜回りと SNS パトロールにも参加した。

LiNK 居場所提供

ヒミツノハコ宿泊期間（12名中6名が利用）

| | | | |
|----|----|----|----|
| 1泊 | 2泊 | 3泊 | 4泊 |
| 2名 | 2名 | 1名 | 1名 |

このほか、ヒミツノハコを経ずに協力団体のシェルター入居が1件あった。

LiNK 自立支援

| シェルター紹介 | 協力団体のシェルター訪問 | 自立支援会議 | 一般賃貸住宅入居調整 | 支援機関紹介 | 就労・修学調整 | 生活保護申請援助 |
|---------|--------------|--------|------------|--------|---------|----------|
| 2 | 15 | 5 | 0 | 4 | 1 | 2 |

LiNK で関わったあとの居住場所（居住場所が決まったあとも、自立支援を継続しているケースも含む）

| 一般賃貸住宅 | 自立援助ホーム | 女性援助センター | グループホーム | それまでの居住場所 | 不明 |
|--------|---------|----------|---------|-----------|----|
| 1 | 1 | 1 | 1 | 7 | 1 |

LiNK アウトリーチ

| SNS パトロール | すすきの夜回り |
|-----------|---------|
| 49回 | 12回 |

●すすきの夜回り：月に一度のペースですすきのを中心とし、中島公園エリアから札幌駅周辺エリアにかけて夜回りを行った。主に、LiNK という相談ツールがあることを周知することに主眼をおいて声かけを行い、「LiNK カード」とともにプチコスメなど、ささやかなプレゼントを渡し、可能であればその場で何か困りごとはないか、相談できる相手がいるかなど対話を心掛けた。

●SNS パトロール：毎週木曜日 18時から 20時まで、X 上で「パパ活」と思われる発信をしているアカウントや「死にたい」「家を出たい」などつぶやいているアカウントにダイレクトメッセージを送り、相談先を知らせた。毎回 30～40 件の発信に対し、何らかの返信があるのは 1～2 件程度である。ダイレクトメッセージ送信後、半年たってから相談が入ったケースもあった。